

都留市史

資料編

古代・中世
近世 I

12 倉見屋敷

南都留郡西桂町倉見

西桂町役場の東方、桂川の右岸に倉見屋敷の比定地はある。現在、住宅地と田になっており、明確な遺構は残らない。しかしながら「内屋敷」「堀」「前田」の小字が残り、いかにも在地領主の居館という景観を知ることができる。

内屋敷を中心とし、西側は桂川の段丘による自然の要害を持っている。東側には「堀」の小字があり、北・南・東側には堀が巡っていたと考えられる。この堀の存在については窪田薫『甲斐都留郡の中世を探る』（一九四・二）が聞き取り調査によって、存在を確認している。内屋敷の北側に隣接する小字「正縄ノ木」の東側、北側には用水が走っていることからこの場所までが城館城と考えられる。

『勝山記』の享禄二年一〇月一八日条に、「クラミノ新九郎」なる人物が出てくる。この人物の居館がこの倉見屋敷であることは、おそらく間違いなからう。さらにこの新九郎について『甲斐国志』は伝承として小林氏とする。とすれば「勝山記」に散見する小林氏との関係が着目される。

（齋藤慎一）



第13図 倉見屋敷付近図

1/2500「西桂町基本図」に加筆